

僕らは特別



東郷 潤

広い宇宙のある星に、髪の毛を紫色に染めた子どもたちのグループがありました。グループには、特別な儀式をしないと入れません。



髪の毛を紫に染めて、水晶に書いてあることを信じると誓います。

水晶には、「紫は選ばれし者。他の人は全て敵。」と書いてありました。



グループの中で、彼らはとっても仲良
しです。

俺たちは
特別なんだ！

私たちは選ば
れているのね！

他のやつらは、
みな、敵だ！



でも、グループ以外の子と仲良くすることはありません。



他の子はみな敵だと、水晶に書いてあったからです。

他の子どもたちは、敵だと思われて、面白くありません。次第に、紫の子どもたちを嫌うようになってきました。

やーい、紫のバカヤロウ！



紫の子どもたちが苛められても、誰も味方なんかしません。



**ちきしょう！
水晶に書いて
あった通りだ！**

**紫以外は、
皆、敵だ**

こうして、紫の子どもたちは他の子どもたちに、しょっちゅう苛められていました。

ある日のことです。紫の子どもたちは、町の公園を独り占めにすることにしました。自分たちだけの公園があれば、苛められずにすむと思ったのです。

邪魔する奴は怪我するぞ！



紫の子どもたちは力を合わせて、他の子どもたちを追い出しました。

さあ、他の子は、もうその公園を使えません。

あっち行け！ ここは紫だけの公園なんだ！

私たちはいつも苛められている特別な存在なの。だから、私たちだけの公園が必要なの！

ねえ、公園を使わせて！



公園を追い出された子供たちは、怒って仲間を集めました。そして、みんなで公園の中に石を投げ込んだのです。



他の誰も苛め
られないのに、
僕たちばかり、
苛められる。
きゃー、
痛い！

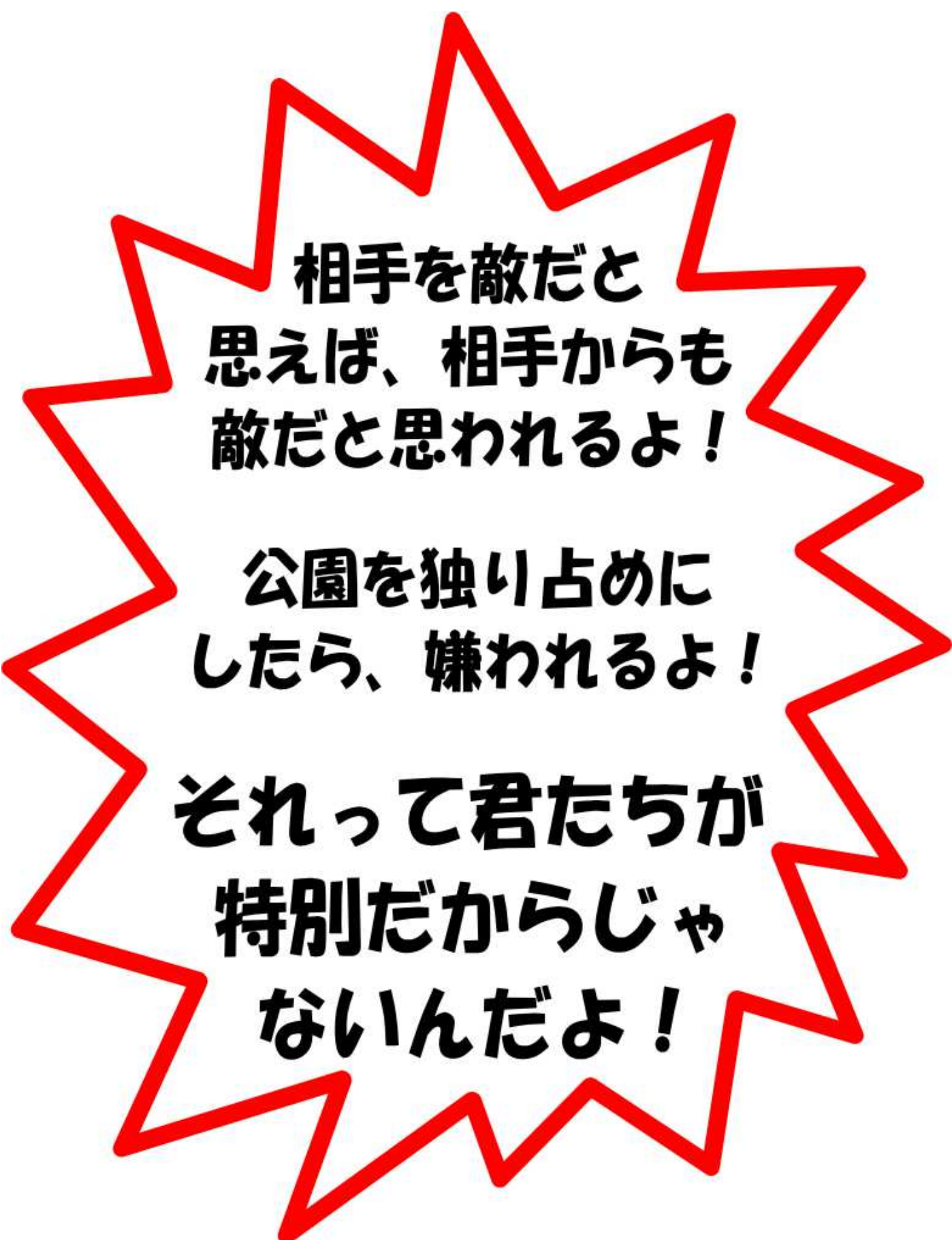


やっぱり、僕
たちは特別なんだ！

こうして、紫の子供たちはこの星で、
ずうっとずうっと苛められ続けまし
た。



いつまでも、もしかしたら何千年で
も……。ああ、なんて可哀想なのでし
ょう！ もし君が、紫の子供たちを可
哀想だと思ったら、教えてあげて！



相手を敵だと思えば、相手からも敵だと思われるよ！

公園を独り占めにしたら、嫌われるよ！

それって君たちが特別だからじゃないんだよ！

あとかき ー絵本「僕らは特別」

被害者意識や選民意識から生まれた錯覚は、容易に人と人との関係を歪めて様々な悲劇を生んでしまいます。

本絵本は、商業出版を除いて自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは東郷潤の他の絵本をダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2007